

第 21 号 | 2013 年 10 月 27 日発行

被災地支援活動「鴨川サマーレスパイトデイズ」に参加しました！ 教授 中原美恵



をたっぷり楽しんでもらうことを目的としています。

乳幼児～低学年児童の参加に対応し、子ども支援学専攻中原ゼミ 3、4 年生 19 名が個別保育スタッフ、遊びプログラムスタッフとして、参加しました。日頃の学びを生かし、子どもたちに最高の 2 泊 3 日を味わってもらおうと、知恵を出し合って準備をしました。自分が大好きな絵本を家から持っていき、特技のダブルダッチ（二本縄跳び）やバルーンアートをやる準備をする、直前の幼稚園教育実習で使った教材をいろいろ持っていくなど、学生同士で相談し、しっかり進めていました。

子ども支援学専攻中原ゼミでは、子どもの心の発達や心理教育の視点を生かした子ども支援のあり方を学び、子ども理解を深めてきています。発達上の様々な障害や愛着関係の形成等への関心が高く、ゼミの研究テーマにも、子どもへの温かなまなざしが貫かれています。

また、ゼミのメンバーは、3 年生も 4 年生も相互に信頼し、成長し合ういい関係を築いています。専門科目講義や学外実習にそれぞれ忙しい中ではありますが、<みんなで体験し、ともに楽しく学ぼう！>の精神で、昨年度も本学東日本大震災復興支援プログラムや地域子育て支援プログラム等に積極的に参加してきました。中でもこの鴨川レスパイト事業において、被災地の乳幼児・児童の心にていねいに寄り添うかわりから学ぶものが大きかったと実感し、今年度もみな熱



いハートを持って、参加することになりました。



個別保育スタッフは、3年生全員で担当しました。幼児から小学3年生までの子どもを1対1で、朝から就寝までずっとケアする役割です。初めは、緊張して話しかけても反応がない子どもが多かったのですが、気持ちを察しながら、ともに行動する中で、子どもから手をつないできたり、笑顔が見られるようになっていきました。

食事は、バイキング形式なので、何をどれだけ食べられるか、どんな声かけがよさそうか、子ども同志のつながりはできそうかなど、いろいろ手探りで関わっていました。中には、苦戦しているテーブルもあり、4年生が入って3年生をバックアップしている様子も伺えました。

遊びプログラムスタッフは、4年生が担当しました。磯遊び、スイカ割り、花火といった屋外遊びは、社会学部の学生が進めてくれたので、中原ゼミは、主にフリーの時間にホールや談話室で自由に参加できる遊びプログラムを用意しました。



1日目は、「バルーンで遊ぼう!」、2日目は、「ダブルダッチに挑戦!」、「紙コップロケットを飛ばそう!」、3日目は、「好評! ダブルダッチ再び」といった展開になりました。お絵かきコーナーや折り紙遊び、絵本の部屋は、常時開設して、静かに落ち着いて遊べる時間も大切にしました。ちょうど磯遊び



に適した天候になり、屋内プログラムの時間は限られましたが、縄跳びでも制作でも、挫けそうになる子どもを支え、たっぷり達成感を味わえるよう、根気強く頑張っていた4年生の姿は、とても頼もしかったです。やり切った子どもたちの笑顔は、とても輝いていました。